

# 国営讃岐まんのう公園における キャッシュレス決済導入検討について

香川河川国道事務所 公園課 古市 圭司  
香川河川国道事務所 公園課長 岡田 和美

国営讃岐まんのう公園は、香川県仲多度郡まんのう町に位置する四国地方で唯一の国営公園であり、年間約50万人の利用者が来園しています。本公園は、現金決済のみに対応した有料公園ですが、2018年に経済産業省が公表した「キャッシュレス・ビジョン」及び内閣官房が公表した「未来投資戦略2018」を契機としたキャッシュレス化推進の流れの中、本公園においてもキャッシュレス決済導入の検討が求められています。そこで、本公園に適したキャッシュレス決済手法の検討を行い、その一環として社会実験を実施しました。

キーワード 国営公園, キャッシュレス決済, 社会実験

## 1. はじめに

我が国では、2011年に人口減少に転じて以降、少子高齢化による人手不足への対応、IT・データ利活用による生産性向上や地域活性化といった社会課題の解決が求められています。そうした中、2018年に「キャッシュレス・ビジョン」や「未来投資戦略 2018」が公表され、これらを契機としてキャッシュレス化の推進が始まりました。

一方、国営公園の入園料は、これまで現金決済のみであり、インバウンド利用への対応、利用者ニーズの高まり、コロナ禍での非接触決済ニーズへの対応等により、キャッシュレス決済の導入が求められているところです。

そこで、一部の国営公園では、キャッシュレス決済対応券売機が導入され、入園料のキャッシュレス決済が開始されています。

ただし、本公園は、料金所において自家用車内で料金決済を行い、有料区域内を移動する形態であるため、先行導入されている他の国営公園と同様のキャッシュレス決済対応券売機の導入ができない状況です。

そこで、本公園の料金徴収形態を踏まえて最も適切なキャッシュレス決済手法を検討し、さらに社会実験を実施しました。

## 2. アンケート調査による利用実態及びニーズ把握

### (1) 調査概要

#### a) 目的

本公園利用者におけるキャッシュレス決済の利用実態やニーズの把握を目的にアンケート調査を実施しました。

### b) 手法

アンケート調査は、以下の3つの手法で実施しました。

#### ①モニター配信型WEBアンケート

四国4県及び岡山県の居住者を対象にWEBアンケートを実施し、広範な地域の利用者から意見を収集

#### ②公園内でのWEBアンケート

回答フォームにつながるQRコードを掲載したポスターを園内に一定期間掲示し、公園利用者から意見を収集

#### ③公園内での利用者ヒアリング

園内で直接ヒアリングし、幅広い年代の利用者からの意見を収集

### (2) 調査結果

#### a) 回答者数

回答者数は、表-1のとおりで、全体で約700票の回答が得られ、主な利用圏から多くの回答が得られました。

表-1 手法別回答者数

調査手法	香川県	高知県	愛媛県	徳島県	岡山県	その他	合計
モニター配信型WEBアンケート	140票	70票	110票	90票	90票	0票	500票
公園内でのWEBアンケート	21票	0票	4票	1票	2票	4票	32票
公園内での利用者ヒアリング	105票	9票	22票	13票	16票	15票	180票
合計	266票	79票	136票	104票	108票	19票	712票

#### b) 最も使用頻度の高いキャッシュレス決済手段

最も使用頻度の高いキャッシュレス決済手段は、約半数がクレジットカードであり、次いでコード決済となりました。一方、四国地方での普及が少ない交通系ICカードは、約2%と非常に少ない結果となりました。

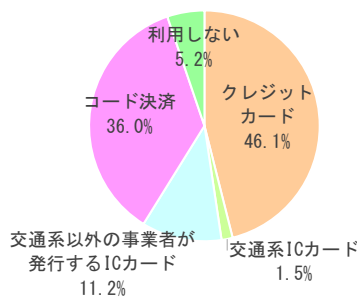


図-1 使用頻度の高いキャッシュレス決済手段

### c) 日常的に使用するキャッシュレス決済手段

日常的に使用するキャッシュレス決済手段は、「クレジットカード」「Pay Pay」「WAON」が上位を占めました。

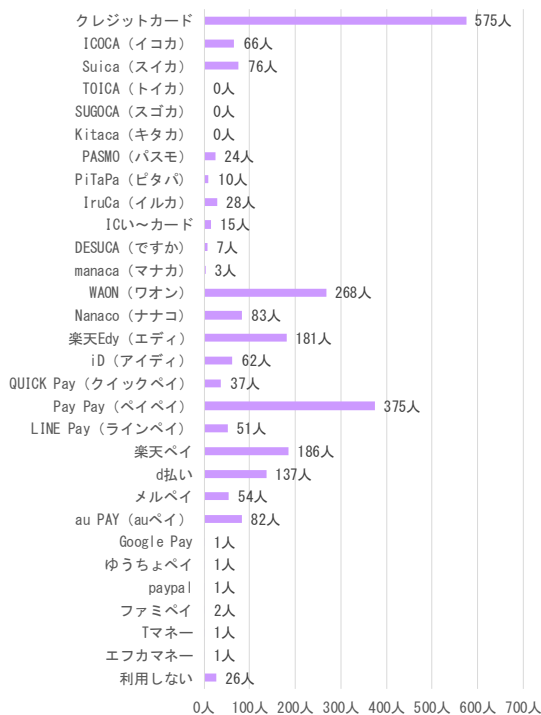


図-2 日常的に使用するキャッシュレス決済手段

### d) キャッシュレス決済の利用可能性

本公園での入園料支払いに対してキャッシュレス決済を導入した場合、全体の約9割が利用すると回答しており、導入意義があると考えられる結果となりました。

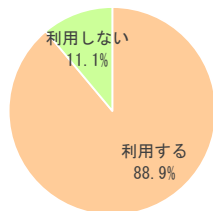


図-3 導入後の利用可能性

### e) 導入を望む項目

本公園の料金支払いの中では、入園料、駐車場料金、

レストラン・売店に対する要望が多く、これらのキャッシュレス決済導入が有意義であることが確認されました。

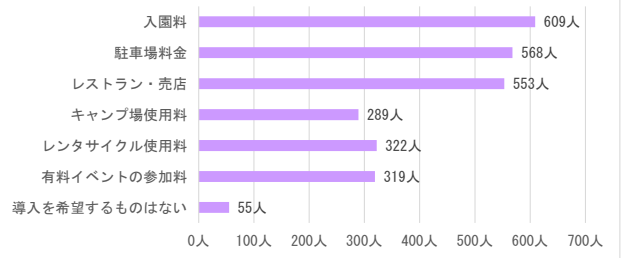
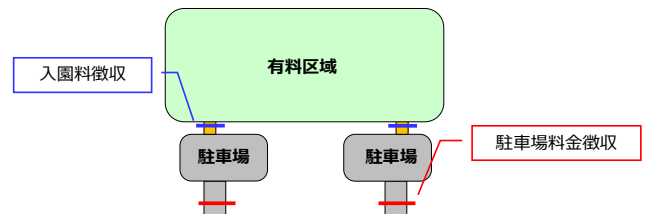


図-4 導入を望む項目

## 3. 国営公園の料金徴収形態

全国には17箇所の子営公園があり、そのうちの12箇所が国庫納付金である入園料を徴収する有料公園です。さらに、11箇所では、駐車場料金も徴収しており、駐車場は各公園の運営維持管理業務の収益事業として運営されているため、運営維持管理業務受託者の収益となります。この11箇所のうち9箇所（国営明石海峡公園は淡路地区のみ）は、駐車場出入口にて駐車場料金徴収を行い、駐車後に徒歩にて入園し、券売機で入園料金徴収を行っています（国営滝野すずらん丘陵公園の滝野の森ゾーン、国営みちのく杜の湖畔公園の北地区、国営越後丘陵公園の里山フィールドミュージアムを除く）。一方、本公園を含む3箇所（国営明石海峡公園は神戸地区のみ）は、有料区域内の車両通行が可能で、全ての出入口で車内で入園料と駐車場料金を徴収する形態となっています。

### 国営昭和記念公園（先行導入公園）他



### 本公園 他

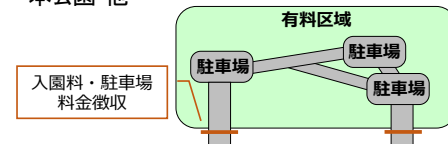


図-5 料金徴収概念図

## 4. 導入手法検討

### (1) 料金徴収に係る本公園の問題点

①納付先の異なる入園料と駐車場料金の同時徴収が必要。

本公園は、入園料と駐車場料金を同時に徴収しているため、どちらか一方のみにキャッシュレス決済を導入することができない。

また、それぞれの納付先が異なり、駐車場料金は事業

者収入であるため、キャッシュレス決済導入に伴い必要となる手数料分の事業者収入が減少してしまう。

#### ②職員による料金確認が必要

本公園は、車両単位で入園料を徴収しており、車内の人数、年齢、割引サービス適用人数等により料金が異なるため、スタッフの確認による料金決定が必要である。

#### ③繁忙期に一般道への渋滞が発生

本公園は、車両内での料金徴収となり、料金徴収に時間を要するため、イベント開催期間の休日を中心に一般道まで渋滞が影響する場合がある。

### (2) 導入可能な手法

本公園の料金徴収形態や問題点を踏まえて導入可能なキャッシュレス決済として、以下の手法を検討しました。

#### ①キャッシュレス決済端末の導入

各種料金計算はブース内のスタッフが行い、キャッシュレス決済機器のみを導入し、支払い時のキャッシュレス化を図る。

#### ②事前決済サービスの導入

インターネットによる事前決済サービスを導入し、事前の料金支払いでキャッシュレス化を図る。入園時は、ブースのスタッフが端末で利用者の支払い情報を確認し、来園状況との整合を確認するだけで通過可能となる。

#### ③キャッシュレス決済対応ゲート導入

各種料金計算はブース内のスタッフが行い、金額情報をその先に設置するキャッシュレス決済対応ゲートに送り、決済することで支払い時のキャッシュレス化を図る。

#### ④園内での料金支払いシステム導入

各種料金計算はブース内のスタッフが行い、入園時は金額情報を格納したカードを利用者に渡すのみとし、利用者は、園内に設置したキャッシュレス決済に対応した料金支払い機器か退園側に設置するゲートで支払うことで、支払い時のキャッシュレス化を図る。

#### ⑤ETCXの導入

各種料金計算はブース内のスタッフが行い、高速道路料金支払いで活用されているETCの多目的利用であるETCXシステムを導入することで、ETCカード自動支払いによるキャッシュレス化を図る。

### (3) 比較検討

各手法を比較検討した結果、初期コストを抑えて導入可能な「①キャッシュレス決済端末導入」と「②事前決済サービス導入」を併用することで、利用者サービスの

向上が可能と考えられますが、これらの手法では、一般道の渋滞緩和効果が低いと考えられました。

一方、一般道の渋滞緩和効果が期待される残りの3案については、新たにゲートシステムを導入する「③キャッシュレス決済対応ゲート導入」や「④園内での料金支払いシステム導入」、「⑤ETCXの導入」は設備費が高額である。

そこで、本公園における入園料及び駐車場料金のキャッシュレス決済導入は、案①、案②を活用し、将来的にはETCXの導入等も視野に入れながら、現時点では暫定的にキャッシュレス端末導入と事前決済サービス導入の併用を検討することとしました。

## 5. 社会実験

### (1) 社会実験の概要

#### a) 目的

今後の入園料及び駐車場料金支払いにおけるキャッシュレス決済や事前決済サービスの導入に向けて、導入効果（利用者サービス向上、渋滞解消、利用状況）を検証することを目的に実施しました。

#### b) 実施期間

実施期間は、効果検証のための十分な利用が見込まれるように、2022年9月の1ヶ月としました。

#### c) 実施場所

本公園には、北口料金所及び西口料金所の2箇所の料金所があるため、両料金所において実施しました。



図-6 社会実験実施状況

### (2) 効果検証

#### a) 項目・手法

以下の項目及び手法で効果検証しました。

#### ①利用者サービス向上効果

社会実験実施期間中、回答フォームにつながるQRコードを掲載したポスターを園内に掲示して回答を得るとともに、公園利用者に直接ヒアリングを実施しました。

#### ②渋滞解消効果

AIカメラにより料金所通過時間を計測し、決済手段別

の平均的な通過時間を整理し、現金決済との比較を行い、渋滞解消効果を検証しました。

### ③利用状況

社会実験中のキャッシュレス決済及び事前決済の利用状況を把握しました。

## b) 検証結果

各項目の検証結果は以下のとおりです。

### ①利用者サービス向上効果

社会実験中に今後の利用意向を確認すると、キャッシュレス決済は8割程度の利用意向が確認され、導入の意義が確認されました。一方、事前決済については6割程度であり、キャッシュレス決済に比べると利用意向が低い結果となりました。

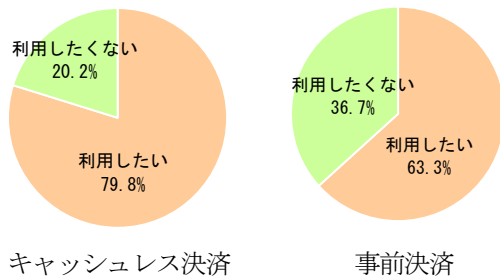


図7 今後の利用意向

### ②渋滞解消効果

期間中の決済手段別の平均滞留時間を比較すると、「クレジットカード」が1分48秒と最も長く、「現金」が53秒と最も短い結果となりました。他の決済手段の平均滞留時間は1分19秒～1分39秒であり、概ね同程度となりました。社会実験であるためスタッフが不慣れであった点に加えて、本公園が現金決済のみと認識している利用者が多く、現金を用意した状態で料金所に来る利用者が多くことから、このような結果になったと考えられます。しかし、この結果は、本格導入後のスタッフの慣れや利用者の認識の変化により、差が縮小されていくものと考えられます。

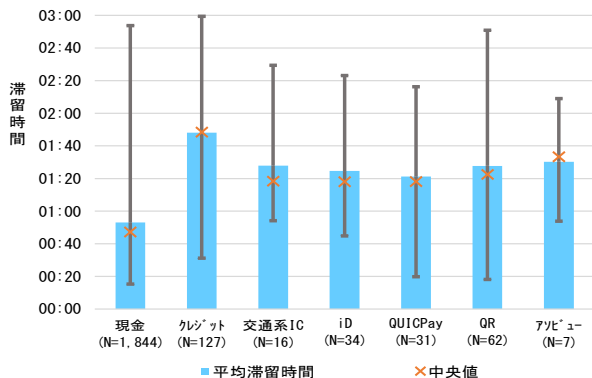


図8 決済手段別滞留時間

### ③利用状況

社会実験中、2割程度キャッシュレス決済が利用された。その内訳は、約半数がクレジットカードであり、次いでコード決済が多い一方、交通系ICカードが非常に少なかった。また、事前決済は、期間を通して10件の利用しかない結果となりました。

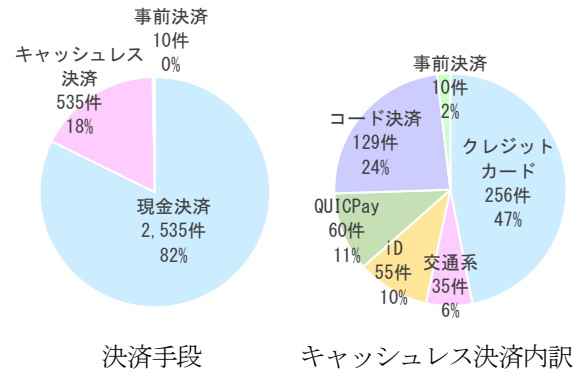


図9 決済手段割合

## 6. まとめ

本社会実験は、期間限定かつHP内での告知程度の広報しか行っていない状況の中でも2割程度でキャッシュレス決済が利用されました。また、社会実験実施前に実施したアンケート、期間中に実施したアンケートともに、8割～9割程度の利用意向が確認されているため、本格的な導入が進めば十分な利用が期待される結果となりました。

ただし、事前決済については、期間を通して10件の利用しかなく、導入効果が期待されない結果となり、これは、事前決済という手間に対して、割引や専用レーンによる優先入園等のメリットがないことが大きく影響したと考えられます。

また、本公園では、繁忙期の一般道における渋滞の発生が問題視されている中、今回の社会実験においては、こうした渋滞解消効果は確認されず、逆に渋滞を助長する可能性を有することが確認されました。ただし、クレジットカードのタッチ決済のように、キャッシュレス決済における決済時間の短縮化も進んでいるため、今後の本格的な導入に向けては、決済時間がかからない手段を導入する等、適切な決済手段の選定が必要となります。

また、現金支払いの利用者も一定数存在することから、現時点では、キャッシュレス決済は支払い方法の1つのツールとしての運用を検討する必要があります。

さらに、本公園では、駐車場事業における収益減少に関する対応も必要であり、社会実験期間の手数料は、国より補償しましたが、本格導入に際する手数料の取り扱いについては、運営維持管理業務受託者と調整をしながら検討を進めていく必要があります。

今後、導入に向け上記問題点の検討を行います。